

※※2017年10月 改訂(第3版)

※2016年6月 改訂

日本標準商品分類番号

872619

貯 法：密栓し、火気及び直射日光を避けて保存

使用期限：3年（表示の使用期限を参照すること。）

注 意：取扱い上の注意の項参照

承認番号	21000AMZ00409
薬価収載	未収載
販売開始	1999年10月
再評価結果	1992年6月

速乾性擦り込み式手指消毒剤

ラポテックラビング

RAPOTEC RUBBING

※※【禁忌】(次の場合には使用しないこと)

1. クロルヘキシジン製剤に対し過敏症の既往歴のある者
- ※※ 2. 膣、膀胱、口腔等の粘膜面 [クロルヘキシジン製剤の上記部位への使用により、ショック、アナフィラキシーの症状の発現が報告されている。]
3. 損傷皮膚及び粘膜 [エタノールを含有するので、損傷皮膚及び粘膜への使用により、刺激作用を有する。]

【組成・性状】

1. 組成

本品100mL中 クロルヘキシジングルコン酸塩0.2g含有。

2. 性状

本品は、無色澄明の液で特異な臭い(エタノール臭)がある。

比重 d_{15}^{15} : 0.860~0.880

【効能・効果】

手指の消毒

【用法・用量】

本剤をそのまま用いる。

※※【使用上の注意】(※※改訂箇所：———, ※改訂箇所：………)

1. 慎重投与(次の患者には慎重に使用すること)
 - (1) 薬物過敏症の既往歴のある患者
 - (2) 喘息等のアレルギー疾患の既往歴、家族歴のある患者
2. 重要な基本的注意
 - ※※ (1) ショック、アナフィラキシー等の反応を予測するため、使用に際してはクロルヘキシジン製剤に対する過敏症の既往歴、薬物過敏体質の有無について十分な問診を行うこと。
 - (2) 本剤は希釈せず、原液のまま使用すること。
 - (3) 本剤の使用時に誤って眼に入らないように注意すること。眼に入った場合は直ちに水洗すること。
3. 副作用
本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

※※(1) 重大な副作用

ショック(0.1%未満)、アナフィラキシー(頻度不明)
ショック、アナフィラキシーがあらわれることがあるので観察を十分に行い、血圧低下、蕁麻疹、呼吸困難等があらわれた場合は、直ちに使用を中止し、適切な処置を行うこと。

(2) その他の副作用

種類 / 頻度	頻度不明	0.1%未満
過敏症 ^{注1)}		発疹・蕁麻疹等
皮膚 ^{注2)}	刺激症状	

注1) このような症状があらわれた場合には直ちに使用を中止し、再使用しないこと。

注2) このような症状があらわれた場合には使用を中止すること。

4. 適用上の注意

投与経路：手指消毒以外の目的には使用しないこと。

使用時：

- (1) 反復使用した場合には、脱脂等による皮膚荒れを起こすことがあるので注意すること。

- (2) 血清・膿汁等の有機性物質は殺菌作用を減弱させるので、これらが付着している場合は十分に洗い落としてから使用すること。
- (3) 石けん類は本剤の殺菌作用を減弱させるので、予備洗浄に用いた石けん分を十分に洗い落としてから使用すること。
- (4) 引火性、爆発性があるため、**火気**には十分注意すること。
- ※ (5) 溶液の状態で長時間皮膚と接触させた場合に皮膚化学熱傷を起こしたとの報告があるので、注意すること。
5. その他の注意
クロルヘキシジングルコン酸塩製剤の投与により、ショック症状を起こした患者のうち、数例について、血清中にクロルヘキシジンに特異的なIgE抗体が検出されたとの報告がある。

【薬効薬理】

1. 本剤はグラム陽性菌、グラム陰性菌、結核菌、一部のウイルスには有効であるが、芽胞及び多くのウイルスには効果が期待できない。
2. ラポテックラビングのMIC(最小発育阻止濃度)

菌種	MIC(μg/mL)※
<i>Staphylococcus aureus</i> NCTC 4163	0.39
<i>Escherichia coli</i> NCTC 8196	0.78
<i>Pseudomonas aeruginosa</i> NCTC 6749	25.0
<i>Proteus vulgaris</i> IFO 3045	25.0

※MICは、クロルヘキシジングルコン酸塩としての濃度を示す。

【有効成分に関する理化学的知見】

一般名：クロルヘキシジングルコン酸塩

(Chlorhexidine Gluconate)

化学名：2,4,11,13-Tetraazatetradecanediimidamide, *N,N'*-bis(4-chlorophenyl)-3,12-diimino-, di-D-gluconate

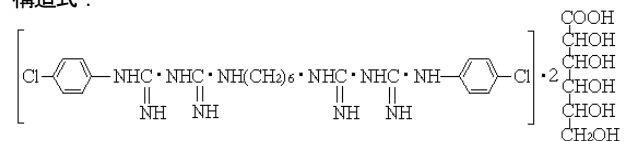
分子式： $C_{22}H_{30}Cl_2N_{10} \cdot 2C_6H_{12}O_7$

分子量：897.76

性状：通常、水溶液として存在し、その20w/v%液は、無色～微黄色の澄明な液で、においはなく、味は苦い。水又は酢酸(100)と混和する。本品1mLはエタノール(99.5)5mL以下又はアセトン3mL以下と混和するが、溶媒の量を増加するとき白濁する。

光によって徐々に着色する。比重 d_{20}^{20} : 1.06~1.07

構造式：



【取扱い上の注意】

本剤の付着した白布を直接、次亜塩素酸塩で漂白すると、褐色のシミを生じることがあるので、漂白剤としては過炭酸ナトリウム等の酸素系漂白剤が適当である。

製造販売元

日興製薬株式会社

岐阜県羽島市江吉良町1593